

Map 2 奄美群島国立公園の立地

奄美群島には、アマミノクロウサギやルリカケスなど、ここでしか見られない珍しい動植物が多く分布しています。奄美群島の島々に、こうした国際的にも希少な固有種を含む多様な生物が見られるのはなぜでしょうか？それは、奄美群島を含む琉球列島が、地殻変動による大陸からの分断や、気候変動による周辺の島々との分離・結合を経て成り立っており、それぞれの島で隔離され生き残った生物や独自の進化を遂げた生物がいること、亜熱帯地域にありながら一年を通じて降水量が多い温暖・多湿な海洋性気候の地域であること、黒潮などの海流や台風などの風によって運ばれてくる生物がいること、北半球と南半球を長距離に移動する渡り鳥の移動経路に位置することなど、多様な経路・過程で到達した動植物によって生物相が構成されている地域であるためだと考えられます。

立地

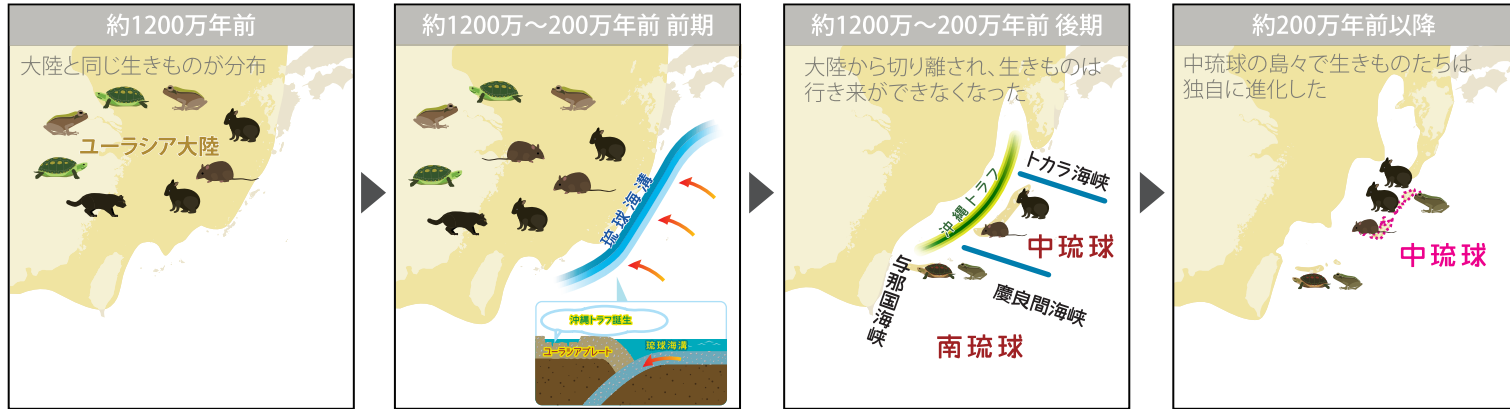
奄美群島は、九州本土の南端から南西方向へ約 1,000km にわたる琉球列島の少し北寄りに位置しています。琉球列島は、フィリピン海プレートがユーラシアプレートに沈み込む琉球海溝と沖縄トラフ（細長い海底のくぼみ）に挟まれて、島々が弓上に連なっており、「琉球弧」とも呼ばれます。

生物分布の境界

- ・三宅線：主に昆虫相の違いから、九州と屋久島・種子島間に設けられた分布境界（≒大隅海峡）
- ・渡瀬線：主に哺乳類相、爬虫類相、両生類相の違いから悪石島と小宝島間に設けられた分布境界（≒トカラ海峡）
- ・蜂須賀線：主に鳥類層の違いから、沖縄諸島と宮古諸島に設けられた分布境界（≒慶良間海裂）

成り立ち

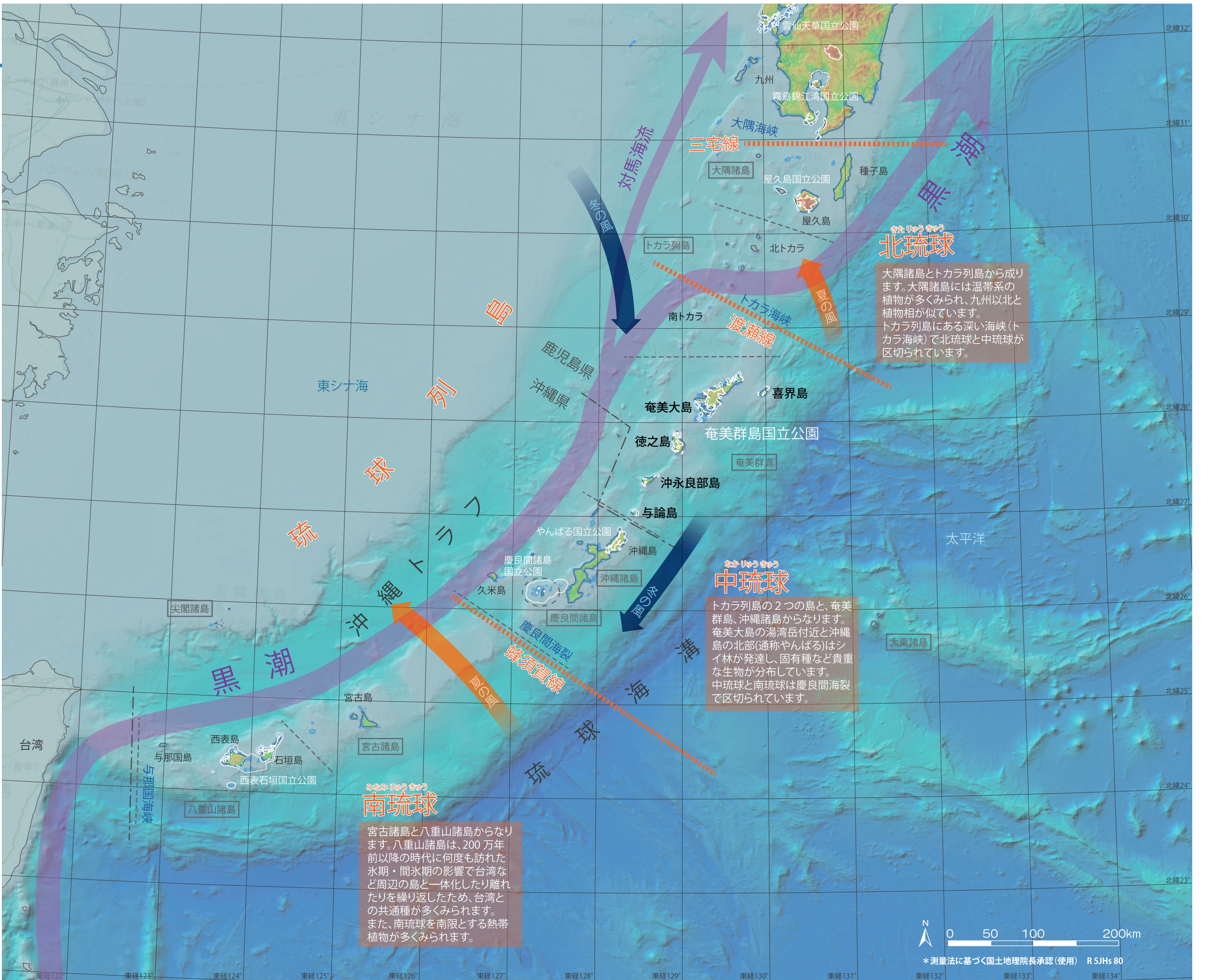
約 1,200 万年以前、琉球列島はユーラシア大陸の縁に位置していました。約 1,200 万年～約 200 万年前の間に、大規模な地殻変動が起き、琉球海溝を挟んで南東側のフィリピン海プレートがユーラシアプレートに衝突し、下に沈み込み始めました。それに伴い、沖縄トラフと呼ばれる海域がつけられていきました。その後、沖縄トラフが拡大していき、大陸と琉球列島が切り離されました。更に、トカラ海峡、慶良間海峡、与那国海峡が形成され、中琉球と南琉球が分離しました。約 200 万年前以降、地殻変動や気候変動（氷期 - 間氷期）に伴う海面変化で、近隣の島嶼間で分離・結合が繰り返され、中琉球は現在の島々の形へ分断されていきました。大陸に近い南琉球では、海面が低下した際にヤマネコなどが大陸から渡ってきて、氷河時代を過ぎてから完全に分離したと考えられています。



新生代中新世 琉球列島は大陸の一部だった [出典]・背景図 地理院タイル(標準地図) [参考]・琉球の植物(国立科学博物館) https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/ryukyus/page01.html

黒潮と季節風

琉球列島の北部の海域には、台湾南部から北上する暖流の黒潮が流れています。黒潮の水温は高く、真夏は約 29℃、冬でも約 20℃を保っています。黒潮はトカラ海峡で東西に分かれ、西側は対馬海流となって、日本海を北上し、東側の流れは、黒潮として太平洋側を日本列島に沿って北上し、房総半島沖から東へ向かいます。また、奄美群島は夏と冬で向きが反対になる季節風（モンスーン）の影響を強く受けるアジアモンスーン地域に位置しています。夏は太平洋側から吹く風により太平洋の湿った空気もたらされ、冬は大陸側から吹く風により東シナ海の湿った空気もたらされます。このようにして、奄美群島は年間を通じて雨が多く、年間の降水量の平年値は奄美市名瀬で 2,800mm を超えます。そのため、世界的には乾燥地帯が多い亜熱帯地域としては珍しく、多雨林が発達する地域となっています。



北琉球
大隅諸島とトカラ列島から成ります。大隅諸島には温帯系の植物が多くみられ、九州以北と植物相が似ています。トカラ列島にある深い海峡(トカラ海峡)で北琉球と中琉球が区切られています。

中琉球
トカラ列島の2つの島と、奄美群島、沖縄諸島からなります。奄美大島の湯湾岳付近と沖縄島の北部(通称やんばる)はシイ林が発達し、固有種など貴重な生物が分布しています。中琉球と南琉球は慶良間海裂で区切られています。

南琉球
宮古諸島と八重山諸島からなります。八重山諸島は、200 万年前以降の時代に何度も訪れた氷期・間氷期の影響で台湾など周辺の島と一体化したり離れたりを繰り返したため、台湾との共通種が多くみられます。また、南琉球を南限とする熱帯植物が多くみられます。